



鹿児島市街地航空写真





鹿児島市史

Ⅱ

監
修

元鹿兒島市長
郷土史家

勝
目
清

鹿兒島大學
名譽教授
鹿兒島女子
短期大學教授

北
川
鉄
三

題字
鹿兒島市長
末吉利雄

桜島の噴火口



序 文

本市は明治二十二年四月一日に市制施行以来今日までの八〇年間にわたる市勢発展はまことに目覚ましいものがあります。

この八〇年の過程には、日本の發展史上に大きな変革をもたらした、日清日露の両戦役をはじめ、今次の世界大戦に至るまでの数々の戦争が惹起し尊い人命が失われたのであります。

ご承知のとおり鹿児島市も市街地の九〇%が壊滅的な戦災をうけましたが、これは市制施行前の文久三年の薩英戦争、明治十年の西南戦役に次いで三度目の戦災でありました。しかしながら、この未曾有の破壊により精神的・物質的に瀕死の重傷を負った鹿児島市は、市民各位の旺盛な精神と、たゆまない努力の成果によりまして、いち早く復興し、都市計画により整備された街並は、南九州の雄都にふさわしい立派な都市として再興されるに至つたのであります。

就中、昭和四十二年四月二十九日には隣接谷山市との合併により新しい鹿

児島市が誕生しました。現在鹿児島市の人口は四〇万二〇〇〇、南九州の中核都市として、また、南進貿易の基地として大躍進を続けております。

鹿児島市史(Ⅱ)は、先に刊行しました、鹿児島市史(Ⅰ)につづき、鹿児島市誕生以来の八〇年にわたる政治・経済・社会・教育・文化の各分野について、あらゆる資料を収集し、記録したものであります。

このように絶間なく変転し、変革されて来た本市の歴史を、今一度ひもとき皆様方の暮らしの中に再認識されんことをお願い申しあげ、歴史編と共に座右に備えて、ぜひご一読願えれば誠に幸甚に存ずる次第であります。

なお、この現代編を刊行するにあたりまして監修執筆の労を賜りました諸先生並びに市史編さん委員、資料、写真等のご提供をいただきました関係各位に対しまして深甚なる謝意を表すると共に、引き続き資料編(Ⅲ)の編さんにご協力を賜わらんことをお願い申しあげます。

昭和四十五年三月

鹿児島市長 末 吉 利 雄

例言

一、本巻は鹿兒島市史全三巻のうち、第二巻現代編である。

一、本巻は明治二十二年四月一日市制施行から、昭和四十二年四月二十九日まで約八〇年間の本市の歴史である。ただし、各編によつては多少の相違もある。

一、文字は当用漢字と平仮名とを原則として用いた。また、人名・地名など読みにくい文字は、できるだけ、初出のところで読み仮名をつける方針をとつた。

一、かなづかいは、現代かなづかいをを用い、平易な叙述を基本とした。

一、本巻の背文字は鹿兒島市長末吉利雄の揮毫による。

一、本巻見返しの写真は、第一巻歴史編見返し絵図面と同地域の現代航空写真である。

鹿児島市史Ⅱ 目次

第一編 政治

第一章 行政

I 地方自治制度の変遷

明治時代の市政

大正時代の市政

昭和時代前期の市政

昭和時代後期の市政

II 行政機構の変遷

市長

助役・収入役

市庁舎の変遷

行政委員会

事務機構と職員

太平洋戦争下の行政

終戦・占領下の市政	六
III 市紋章・市民憲章・名誉市民	七
市紋章	七
市民憲章	七
名誉市民	八
IV 国際親善	八
外国貴賓の来鹿	八
ナポリ市と姉妹都市の盟約成立	八
第二章 財政	五
I 明治時代の市財政	五
市制施行より明治三十年代までの財政	五
明治後半期の財政	五
II 大正時代の市財政	二
昭和時代の市財政	三
III 日華事変ぼつ発までの市財政	三
日華事変以降太平洋戦争終結までの市財政	四
戦後復興期の市財政	五

昭和三十年以降の市財政……………一七

第三章 議会・選挙……………三九

I 政党の沿革……………三九

II 議会概観……………三三

III 議会の活動……………三五

市会の沿革と権限……………三五

地方自治法による市議会……………三七

市参事会……………四〇

常任委員会……………四〇

特別委員会……………四四

市議会事務局……………四四

会議規則の変遷……………四四

市議会の審議状況……………四四

IV 役員……………四〇

歴代議長……………四〇

歴代副議長……………四一

V 選挙概観……………四五

市議会議員の選挙	二五
県議会議員の選挙	二六
国会議員の選挙	二七
最高裁判所裁判官国民審査	二八
地方首长選挙	二九
その他各種選挙	三〇

第四章 保安

I 消防	三七
消防制度の変遷	三七
消防施設の変遷	三八
II 警察署	三八
昭和二十年以前の推移	三八
昭和二十年以降の変遷	三九
警察署の管轄区域と定数	三九
警察行政の推移	四〇
III 兵事	四〇
日清戦争以前の鹿児島島の軍制	四一

日清・日露戦争と鹿児島……………二七

満州事変から太平洋戦争まで……………二九

IV 自衛隊……………三〇

V 海上保安庁……………三二

第二編 経 済

第一章 商・工業……………三五

I 商 業……………三五

明治時代の商業……………三六

大正時代の商業……………三六

昭和時代前期の商業……………三七

昭和時代後期の商業……………三七

物産の斡旋状況……………三五

II 工 業……………三五

明治時代の工業……………三五

大正時代の工業……………三六

昭和時代前期の工業……………三六

昭和時代後期の工業……………三三三
鹿兒島臨海工業地帯……………三六四
電気事業……………三八五
ガス事業……………三八九

第二章 農林・水産業

I 農林業

はじめに……………三九二

前期の農業（明治二十二年～昭和八年）……………三九四

後期（戦前）の農業……………四一九

後期（戦後）の農業……………四二七

II 水産業

明治・大正時代の水産業……………四四六

昭和時代の水産業……………四五六

第三章 観光

I 観光資源

名所旧跡……………四四九

温泉都市……………四六一

II	觀光施設	行事と土産品	四七四
交通と観光客	四七六		
宿泊施設	四八四		
III	観光宣伝と観光行政	四八五	
観光宣伝	四八五		
観光行政	四八六		
IV	観光開発	四九〇	
第四章	交 易	四九六	
I	鹿児島港開港と交易（太平洋戦争期まで）	四九六	
輸（移）入	四九六		
輸（移）出	五〇一		
II	太平洋戦争後の貿易	五〇四	
被占領時代の貿易	五〇四		
独立以後の貿易	五〇八		
第五章	金 融	五二四	

I 銀行……………五四

明治・大正時代の銀行……………五四

昭和初期の金融恐慌時代……………五三

戦時下の金融機関……………五六

戦後の金融界……………五三

II 庶民と金融……………五四

庶民金融機関……………五四

第六章 交通・通信……………五九

I 交通運輸の発達……………五九

陸上交通……………五九

市内電車……………五九

鉄道……………五三

海上交通……………五六

II 交通運輸の近代化……………五五

交通難打開の大勢……………五五

鉄道……………六一

海上交通……………五六

航空	五八
通信の発達	五九
電話	五九
郵便	五二

第三編 社会

第一章 社会福祉	五七
----------	----

I 明治・大正時代の社会福祉	五七
----------------	----

社会福祉の概念	五七
---------	----

明治時代の社会事業	五八
-----------	----

大正時代の社会事業	五九
-----------	----

II 昭和時代の社会福祉	六三
--------------	----

昭和時代前期の社会事業	六三
-------------	----

昭和時代後期の社会事業	六三
-------------	----

第二章 保健衛生	六六
----------	----

I 医療制度と医療機関	六六
-------------	----

II	保健予防衛生	六七
	伝染病予防	六七
	保健	六八
	公衆衛生	六八
	保健所	六八
III	環境衛生および清掃	六九
	ソ族・昆虫駆除事業	六九
	清掃事業	六九
	し尿処理	六九
IV	火葬場	六九
	葬法の変遷	六九
V	墓地	六九
	墓地の変遷	六九
第三章 労働		
I	労働行政	六九
II	戦前の労働組合運動	六九
	全国概況	六九

	本県および本市の運動	六九
III	戦後の労働組合運動	七二
	戦後第一期の運動	七三
	戦後第二期の運動	六五
	戦後第三期の運動	六四
	戦後第四期の運動	六八
第四章 公共事業		
I	水道事業	七七
	上水道事業	七七
	下水道事業	七六
II	都市計画	七六
	戦前の都市計画	七六
	戦災復興事業	七〇
	都市改造及び宅地開発	七六
	住居表示整備事業	七四
III	住宅対策	七四
IV	港湾及び空港	七九

港湾……………七〇
空港……………七〇

V 一般土木事業……………七五

第五章 災害・戦災……………七六

I 災害……………七六

風水害……………七六

大火……………七六

桜島の噴火……………七三

II 戦災……………七五

第六章 市民生活……………七八

I 地域の発展……………七八

鹿児島市誕生と発展……………七八

町村合併促進法施行以後の発展……………七八

II 人口の増加……………七八

人口の変遷……………七八

労働力と産業別就業人口……………七八

第四編 教 育

有配偶者別人口…………… 八〇〇

第一章 学校教育…………… 八〇五

I 明治時代の学校教育…………… 八〇五

概 観…………… 八〇五

幼児保育・初等教育…………… 八〇〇

中等教育…………… 八三三

特殊教育…………… 八三七

高等教育…………… 八三六

II 大正時代の学校教育…………… 八四〇

概 観…………… 八四〇

幼児保育・初等教育…………… 八四四

中等教育…………… 八四四

特殊教育…………… 八四四

高等教育…………… 八六六

III 昭和時代前期の学校教育…………… 八六六

概観……………八六

幼児保育・初等教育……………八七

中等教育……………八八

特殊教育……………九〇

高等教育……………九二

IV 昭和時代後期の学校教育……………九三

概観……………九三

幼児保育・初等教育……………九三

前期中等教育……………九四

後期中等教育……………九五

特殊教育……………九五

高等教育……………九六

各種学校……………九六

第二章 社会教育……………九六

I 明治・大正時代の社会教育……………九六

概観……………九六

社会教育の成立……………九六

II	昭和時代前期の社会教育	九九
概観	九九
社会教育の発展	九九
III	昭和時代後期の社会教育	一〇三
概観	一〇三
社会教育の拡充	一〇四
第三章	体育	一〇六
I	明治・大正時代の体育	一〇六
学校体育概観	一〇六
学校体育	一〇八
社会体育	一〇七
II	昭和時代の体育	一〇三
体育行政制度の発展	一〇三
学校体育の推移	一〇四
学校体育施設の整備	一〇六
社会体育施設の整備	一〇四
社会体育の進展	一〇八

社会体育の興隆……………一〇四

第五編 文化

第一章 文化……………一〇五

I 文学……………一〇五

和歌……………一〇五

俳句と狂句……………一〇七

詩……………一〇八

文芸……………一〇九

II 美術工芸……………一〇九

美術……………一〇九

工芸……………一〇九

書道……………一〇九

写真……………一〇九

III 音楽……………一〇九

洋楽……………一〇九

民謡と邦楽……………一〇九

IV	芸能	108
第二章 文化財		
I	概観	109
II	文化財保護の変遷	109
III	県および市の文化財行政	109
	県の文化財行政	109
	市の文化財行政	109
IV	市の指定文化財と文化財保護の問題点	109
	指定文化財	109
	文化財保護	109
V	市の文化財調査	109
第三章 新聞・放送		
I	新聞事業	113
II	放送事業	113
	日本放送協会	113
	南日本放送	116

第四章 宗 教

I 神社と神道	二三三
神社	二三三
宗派神道	二三五
II 寺 院	二三六
主要な寺院	二三七
真宗の興隆	二三七
宗派別寺院数	二三四
III キリスト教	二三五
明治・大正時代のキリスト教	二三五
昭和時代のキリスト教	二三六
附 録 明治末年の鹿児島市下水道平面図	二三六